



エコ・ファーストの約束

～環境先進企業としての地球環境保全の取り組み～

環境大臣 鴨下 一郎 殿

平成 20年 7月 1日

日産自動車株式会社

社長兼最高経営責任者 カルロス・ゴーン

日産自動車株式会社は、シンシア・エコイノベーターとして、究極のゴール「日産の企業活動と日産車の使用過程から生じる環境負荷を自然が吸収可能なレベルに抑える」ことを目指して、以下の取り組みを進めてまいります。

シンシア・エコイノベーター(Sincere Eco-Innovator)

- シンシア（誠実な）：環境問題に対して積極的に取り組み、環境負荷を低減します
- エコイノベーター：持続可能なモビリティ社会の発展のために、お客さまに革新的な商品を提供します

1. 低炭素社会の実現に向けて、CO2排出量を最小化します。

〔商品・技術〕 2050年新車からのCO2排出量70%削減（00年比）を目指して

- 2010年度に米国及び日本に電気自動車を導入し、2012年度にはグローバルに量産します。電気自動車を用いて新たな都市モデルの構築に貢献します。
- 2009年10月から施行される新しい排出ガス規制「ポスト新長期規制」にいち早く対応するクリーンディーゼル車を2008年秋より発売します。
- カーナビ向け情報サービス「カーウイングス」で、最速ルート検索や、エコドライブをサポートするなど各種サービスを展開し、実際のクルマから排出されるCO2を削減します。

〔生産〕 ■2010年度に全ての工場でのCO2排出量を2005年度比7%削減します。（台あたりCO2排出量）

2. 水・大気・土壌の保全を目指して、エミッションをクリーン化します。

〔商品・技術〕 ■大気並みにクリーンな排出ガスを目指した技術開発を行います。

3. 再資源化率100%を目指して、資源の有効活用を推進します。

〔商品・技術〕 ■製品の3R配慮設計を更に進め、国内向け新型車は全てリサイクル可能率95%以上を達成します。

- 従来の約50%の貴金属の使用量で、クリーンな排出ガスを実現するガソリン車用の新触媒を2008年度下期より発売する新型車から順次適用し、レアメタルの使用量削減に努めます。
- 使用済自動車を材料としてリサイクルする活動を拡大し、2010年までに適用技術の開発を進めます。
 - ・交換済みバンパーを回収、リサイクルし、再生材として年900tを新品部品に適用します
 - ・使用済自動車からアルミニウム製ロードホイールを回収、リサイクルして年1200tを足回り部品に適用します
 - ・使用済自動車から樹脂部品を回収、リサイクルし新品部品に適用する技術開発を実施します

■日産の国内事業所および一部の関連会社から排出される廃棄物（樹脂）からペットボトルキャップを分別回収し、09年度に7tを新車の部品材料として適用します。

〔生産〕 ■2010年までに、日本国内の事業所並びに連結製造会社において生産工場からの廃棄物を100%再資源化します（自工会算出基準※1による）。

〔市場〕 ■使用済自動車からの資源の有効活用を促進するために、リサイクル業界とのコミュニケーションを進めます。

- ・双方向コミュニケーションのための情報誌の配布（年3回発行）
- ・インターネット上に、銅の使用部位と取り外し方法、樹脂部品と材料について車種毎に情報発信

4. あらゆる事業活動から環境負荷を低減し、環境意識の向上に努めます。

〔事業活動〕 ■2007年5月より稼働している日産先進技術開発センター、及び2009年完成の本社新社屋（横浜市）でCASBEE(建築物総合環境性能評価システム)最高レベルSランクを取得します。

〔販売会社〕 ■ISO14001に準じた日産独自の販売会社環境マネジメントシステム「日産グリーンショップ」認定制度を全販売会社に適用します。

■2008年度より、CO2マネジメントを開始します。

〔従業員〕 ■2008年中に環境基礎教育プログラムを日本の日産自動車従業員に実施します。

※1自工会 産業廃棄物再資源化率 定義・算出基準：再資源化率＝再資源化量／発生量×100%再資源化量にはサーマルリサイクルとして、確実にリサイクルされているものを含む

日産自動車株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、結果について環境省への報告、ならびに定期的な公表を行って参ります。

NISSAN